

(3) その他

モデル校でのがん教育実践（児童・生徒・保護者の質問や感想）

「がんについて正しく知ろう ～身近な病気から考えるいのちの思いやり～」
外部講師（医師＆がん経験者）／順天堂大学 教授 佐瀬 一洋

がんについて勉強したことを踏まえ、講師先生に聞きたいことを発表しよう



【講師先生への質問内容】

- （問）3年前に祖父を胃がんで亡くしたが、がんは遺伝するのか。
- （問）がんになった時どう思ったか。つらかったことは何か。
- （問）がんの種類・特徴・多いがんは何か。
- （問）がんにかかる理由・原因・年代は。
- （問）がんになるとどのような症状が出るか。
- （問）がんの治療法・抗がん剤の副作用は。
- （問）治すのが一番難しいがんは何か。
- （問）確実に治るがんはあるのか。
- （問）がんの予防法は何か。
- （問）笑うとがんになりにくいというのは本当か。

～生徒の感想～



- ・ TVドラマの影響で、がんになったらほぼ100%死亡するイメージがあったので、将来がんになったらどうしようと、とても不安だったけど、がんになっても生きられる確率が上がってきていると聞き安心しました。
- ・ 徳島県民（大人）はあまり検診を受けていないようなので、私は大人になったら検診を受けたいし徳島の大人の人達にも受けてほしいと思いました。がんになる確率を減らすために、健康的な生活を心がけようと思いました。心身共に健康に過ごせるようにしたいです。
- ・ 佐瀬先生が「笑うとがんにかかりにくい。そう信じている」と言ってくれたので、これからたくさん笑える生活をしたいです。

～家族や親戚が「がん」であった生徒の感想～



- ・ ぼくは、今日の学習を通してがんについてたくさんの情報を手に入れました。実は、ぼくのおばさんはがんによって亡くなりました。その頃は、ぼくはまだ幼かったのも何とかわかりませんが、ぼくは今日教わったことを参考に、おばさんの分まで生きたいです。
- ・ 私は、両親ともに親が「がん」「脳こうそく」で亡くなっています。そして母親も「乳がん」になっています。テレビでも北嶋さんが乳がんになり、右胸をなくしていました。私は母がそういう風になってほしくないの、なるべく負担をかけないようにして、今自分にできることはして、母がやっていることをできるようにしていきたいです。

～ 参観した養護教諭の感想 ～



- ・ 「命を大切に生きる」を伝える中で、発達段階やその年齢でわかりやすい病気から今からできる予防について、正しい知識を教えることが大切だと感じた。がんにかかった家族がいる生徒にとって配慮が必要な教育だと思う。
- ・ がんを克服した講師の方から、新しい知識や予防など、生の声を聞きながら正しい「がん教育」（最先端）が受けられるよい機会だと感じた。
- ・ 講師が、生徒の意見や気持ちを丁寧にすくいあげており、近親者にがん患者がいる生徒にも十分配慮していたことが大変素晴らしい、参考になった。生徒の反応を見ながら、少し専門的な言葉や解説を入れていたところは医師ならではの内容であり、生徒は正しく知ることの大切さを感じたと思う。

阿南第二中学校（がん教育）／公開授業／授業研究会



【カリキュラムの問題について】

- ・がんを取り上げるのが最終目的ではなく、がんという病気を通して普遍的なことをどう伝えるかが学校に課せられている課題
- ・カリキュラムをコーディネートするのは教師の仕事、医学的な専門知識を持っているのは医師や看護師、がんとう向き合っているかやがんを経験して肯定的に生きている経験者の話、これらがトータルで組み合わせる時に、がんを窓口にして普遍的なものに子供たちがたどりつくことができるのではないかと。

【指導のあり方について】

- ・がん経験者からのメッセージとしてはネガティブな感情を持たせないように、わかりやすく伝えることを心がけたい。
- ・看護師の立場からは「がんになって生きていくってどういうことなのか」（感謝や希望）ということを伝えたい。
- ・教師の立場からは、医学の進歩や情報が錯乱している中、子供たちに正しい知識と正しい理解をさせるために、研修が必要。
- ・がんという病気には重たい面（身内の死）もあるので、その点も含め、指導のあり方の工夫やメンタル面のサポートが大切。



「～抗がん剤ちりょうと看護師のしごと～」(5・6年児童／PTA参観授業) 外部講師（看護師）／徳島大学病院 がん専門看護師 三木幸代

児童の発表



これまでの学習で、がんについて学んだ事を各班で発表

今日の講師先生（看護師）への質問をグループで発表

児童の質問に講師が答える



- （問）がん患者が受けるがん治療で、一番多い治療法は何か。
- （問）1年間に三木さんが治療するがん患者は何人いますか。
- （問）がん治療で大切なことは何ですか。
- （問）がん患者を診る時、心がけていることは何ですか。
- （問）がん患者にどんな対応をしていますか。
- （問）同じ看護師とは、どんな話をしているのですか。
- （問）がん治療をする人を、どのように安心させていますか。
- （問）がん以外の患者と、がん患者との接し方で違いはありますか。
- （問）一番大変なのは、どんな治療をする時ですか。
- （問）看護師として一番大切なことは何ですか。

「がんの治療に携わって ～生命・健康を支えて～」(保護者懇談会)
外部講師(看護師)／徳島大学病院 がん専門看護師 三木幸代



- ・「我が国のがん告知の状況」紹介(昔に比べ告知率アップ)
- ・「告知については患者の思いと家族の思いに矛盾あり」
(人生はその人本人のもの。自分の人生は自分で決めることが大切)
- ・「がん告知後の患者の心情の変化」
- ・「ストレスを克服するために大切な3つのこと」
(①正しい理解 ②適切なサポート ③自分で対処する力)
- ・「心から聴くことの大切さ」(耳・目・心を相手に傾ける)
- ・「傾聴を一緒に考えてみましょう」(事例紹介)

【保護者の意見・感想】

- ・「婦人科検診は恥ずかしさがあるが早期発見・検診の大切さを感じた。」
- ・「傾聴の大切さを改めて感じた。がんに限らず子供に対しても大切だと思う。」
- ・「家族の体を心配している子供たちの思いが、今回の授業で多く聞けた。」
- ・「がんになってもネガティブにならず、ポジティブに考えられたらと思う。」
- ・「子供を安心させるために、家族が元気であることは大切だと感じた。」
- ・「がん患者への接し方は大変参考になった。自分を含め家族の健康について改めて気をつけたいと思う。特に毎日の食生活は重要だと思う。」



～ 児童の感想 ～



- ・がんは誰でもなる身近な病気なので、バランスのよい食事や適度な運動を心がけようと思った。
- ・がんになっても安心して治りようを受けられるように、その人らしい生活を送ってもらえるように支えてくれる看護師さんの思いがわかった。
- ・看護師にとって大切なことは、患者さんの安全を守り安心させることだと知った。看護師さんの大変さやがんばっているのはすごいと思った。
- ・がんになりたくないと思った。もしがんになったらがんに立ち向かうことが大切だと思う。
- ・がんになった時は、不安になるけど、一人じゃないよと言ってあげることが大切だと思う。
- ・大人になったら定期的に検診に行きたいと思った。
- ・運動不足なので、運動をしっかりと、早寝早起きを心がけたいと思った。自分の生活習慣を見直そうと思った。
- ・生活習慣を整えて、がん検診にもいって病気を予防したい。

～ 教職員の感想 ～

・がんからスタートし、命と健康という普遍的なテーマについて子供・保護者と共に学べたことは効果的であった。外部講師の方との出会いは子供・教員・保護者にとって大きなインパクトがありプロフェッショナルとの出会いが学びを深くしたと思う。

・がん治療に携わっている看護師さんの話を子供たちが聞いて、がんや健康的な生活の学習だけでなく、看護師さんの仕事・生き方についても学べてよかった。

・がん教育を通して自分の生活習慣の大切さに気づき、見直していこうとする意欲をもつことができてよかった。保護者も交えて相手に寄り添い話を受け止めていくことの大切さを学ぶことができた。さらに命の大切さや生き方などにも今後つながっていかけると思う。

・外部講師の先生方が素晴らしい、よくわかる、感動のある授業となった。自分の生活習慣を見直したり、家族にがんの予防を呼びかけたりするよい機会となった。



～がんに負けない私～

- ①がんのことを正しく知れ
- ②自分の事として考え
(自分は何ができるか)
- ③自分のできることを行動化する



～限りある命を大切に、今を大事に生きる～



【がんに負けない私】でいるために
今、自分は何ができるか？
何をすればよいのか？
考え行動しよう！
【限りある命を大切に…
今を大事に生きよう！】

【がん経験者からのメッセージ視聴】

「がんになったことで改めて感じたこと」
「皆さんに伝えたいことを…」
メッセージとして送ってくれました。
聞いて下さい。



【サプライズゲスト登場】

メッセージを送って下さった川崎さんが、実は、皆さんに会いに来て下さいました。
川崎さんから生のメッセージを一言頂きました。



～ 児童の感想 ～



- ・がんの学習をして、徳島県の死因第一位で、身近な病気であり、2人に1人がかかるということがわかりました。外部講師の先生やがん経験者の方からのメッセージを聞いて、普段の生活で食事・運動・すいみんなどを注意して、健康な体作りをしていこうと思います。そして大人になったらきちんとがん検診を受けようと思います。今日学んだことを忘れず、がんを負けない体を作っていきたいと思っています。
- ・がんになっている人は、すごくつらい思いをして、今日ここにいます。いろんな苦労をしていることがわかりました。また、家の人と前向きにがんについて話をしていきたいです。
- ・身近な人ががんにかかったら、その人のためにできることをしてあげたいと思いました。最後にがんになっている人がいらっやったのは、とてもびっくりしました。

～ 教職員の感想 ～

- ・インフルエンザと比較しながらわかりやすく説明して下さり、子供たちは今、自分にできることを改めて考える機会になったと思う。
- ・講義形式でなく、子供たち全員に次々質問していく授業形態だったので、子供がよく考えることができた授業だと思った。
- ・実際がんを経験された方の話を聞くことができ、知識だけでなく思いや生き方まで学ぶことができたのはよかった。今後につながっていくと思う。
- ・私も親なので、食事面や生活指導面からも勉強になりました。保護者の方が聴かれてもとてもよいお話だったと思う。
- ・話や説明だけでは子供によっては集中力が続かないことがある。がん患者本人が来て下さったのはよかったと思う。
- ・話し合い活動やワークシートなどいろいろな活動が必要であると思う。



外部講師(がん経験者) / AWAがん対策募金 川崎 陽二 「発達段階を考慮し、わかりやすく興味を持たせる工夫/クイズ教材活用」

がんについて○×クイズ (問) がんは、お年よりだけがんになってしまう病気である。	がんについて○×クイズ (問) 日本人の2人に1人は、がんになる。	がんについて○×クイズ (問) がんは、日本人の死亡原因の1位である。	がんについて○×クイズ (問) 健康な人にもがん細胞ができてことがある。
がんについて○×クイズ (問) がんになる原因は、1つである。	がんについて○×クイズ (問) がんは、体に異常がでる前で見つけることができる。	がんについて○×クイズ (問) がん検診は、健康な人は受けてもよい。	
がんについて○×クイズ (問) がんは、治らない病気だ。	がんについて○×クイズ (問) がんを、予防することができる。		

～ 児童の感想 ～

- ・川崎さんはがんなのに、とても明るくおもしろい人だったので、少し「がんはこわくない」と思いました。クイズも○×で答え、わかりやすい説明をしてくれました。がんのことが、とてもよくわかりました。
- ・がんは、生活習慣でなることもあると聞いたので、これからは規則正しい生活をしようと思いました。そしてこれからも命を大切に、一日一日を大切に過ごしたいです。
- ・ぼくは、がんになるともう治らないと思っていました。でも川崎さんのお話の中で「がんは治る」って聞いてくれたので少しびっくりしました。ぼくはがんで苦しんでいる人を助けたり、過ごしやすい世の中にしたいと思いました。そして、がんになっている人を応援して、少しでも良くなってほしいです。



～ 児童の感想(川崎さんへの質問) ～

- ・ドラマでよく見るのですが、がんになった人は、親に伝えるのに苦労しているようですが、川崎さんは、どうやって親に伝えたのですか。
- ・私は、身内にがんの人がいます。しかも末期がんで、余命5ヶ月と言われ、生きる希望さえなくなってしまっています。私は、その人にどんな言葉をかけたらいいですか。
- ・私のおばあちゃんも舌のがんで、今入院しています。家におばあちゃんがいなくて大変だし、すごく悲しいです。川崎さんは「余命3年」と言われた時、川崎さん自身・川崎さんの家族は、どんな気持ちだったのですか。
- ・川崎さんは、がんとたたかっている時、どんな気持ちでしたか。また、近所の人にはどんな反応でしたか。



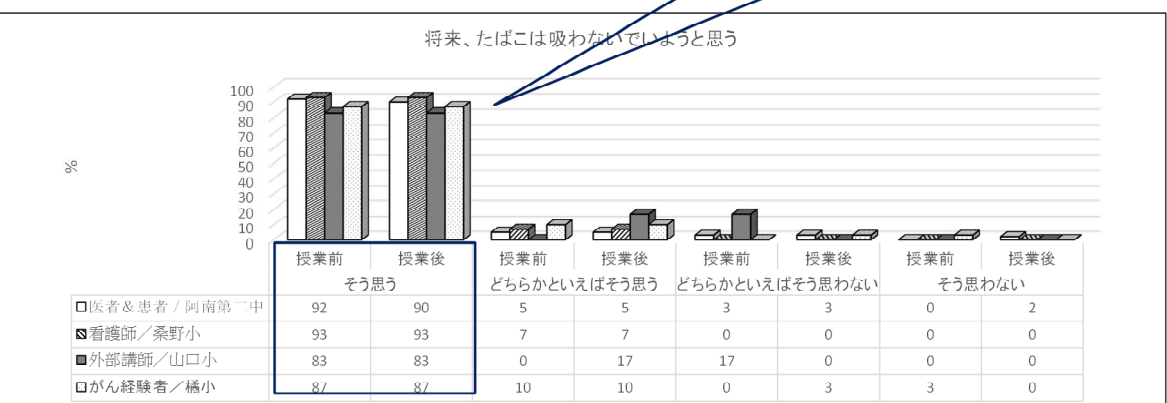
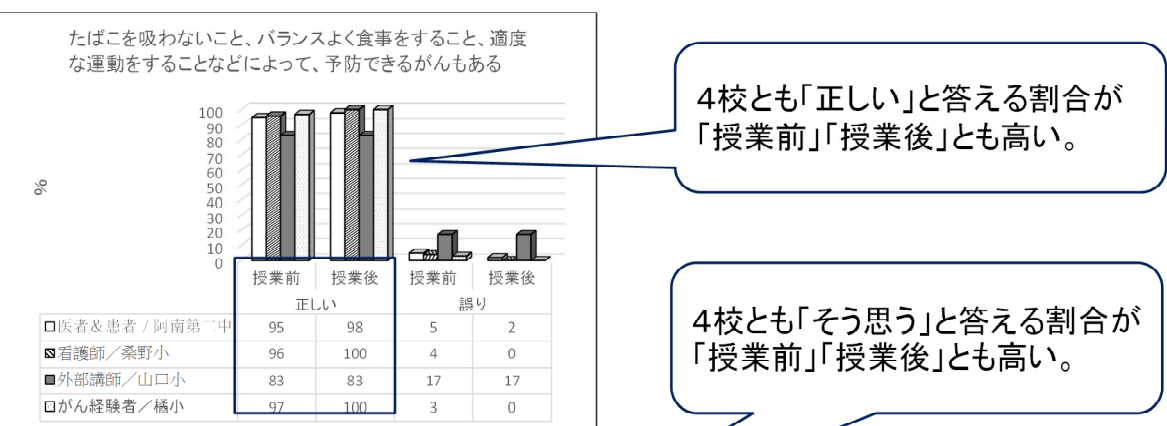
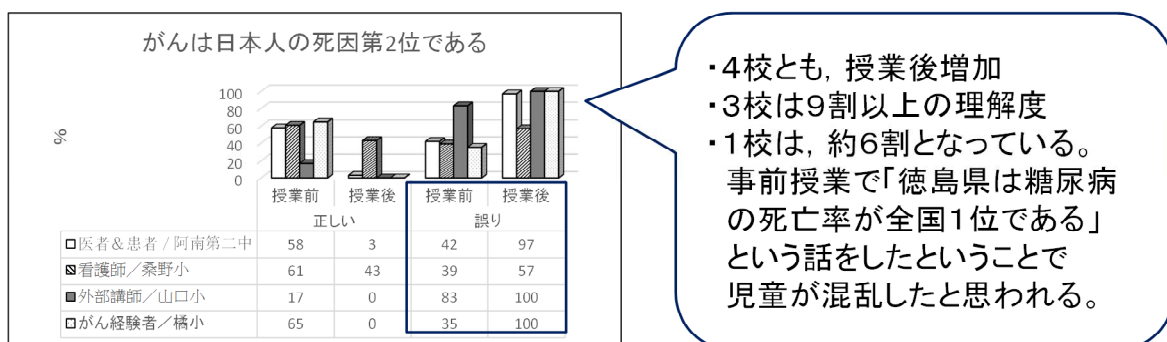
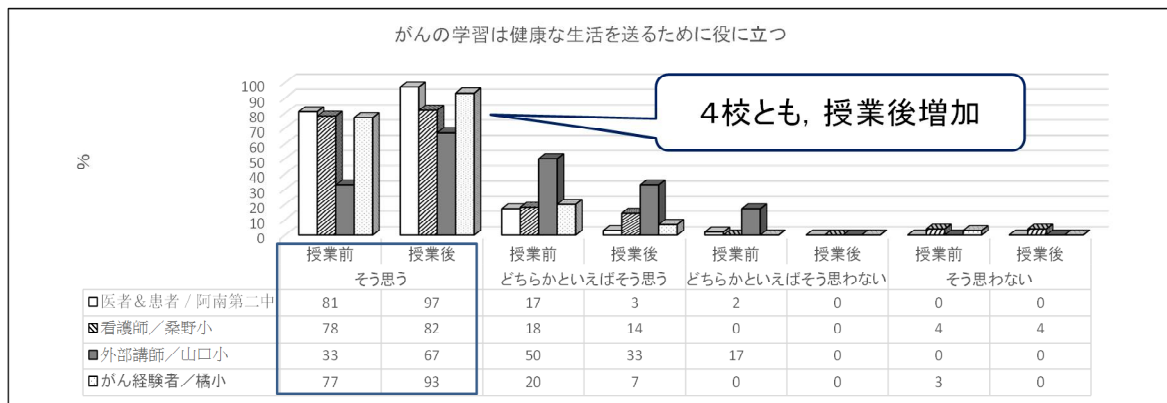
～ 教職員の感想 ～

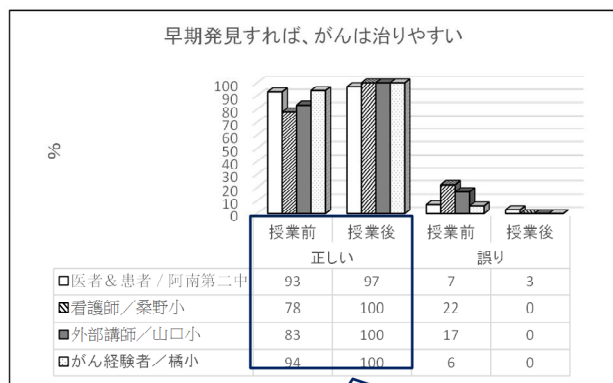
- ・クイズ形式で、がんのいろいろな側面に焦点化して考えることができ、児童が楽しく学べていると感じる授業であった。
- ・がんで今も治療をされている方の言葉は、重くて貴重でした。
- ・子供たちは、TVやCM等で、がんについてよく知っていると思った。講師先生の明るく前向きな語り口調が、がんに対するマイナスイメージを和らげるものとなつたし、治る病気であるというイメージが印象づけられた。子供たちは、前向きに「生活習慣を見直したい」「検診が受けられる年齢になったら積極的に受けたい」と感じているが、この意欲をより実践につなげるには、発達段階に応じ継続的に学習を積み重ねていく必要があると感じた。
- ・家族や身内に闘病中、あるいは亡くなっている等配慮が必要な児童について、校内で共通理解し、授業中や授業後の児童の様子をしっかりと観察することが重要だと思った。



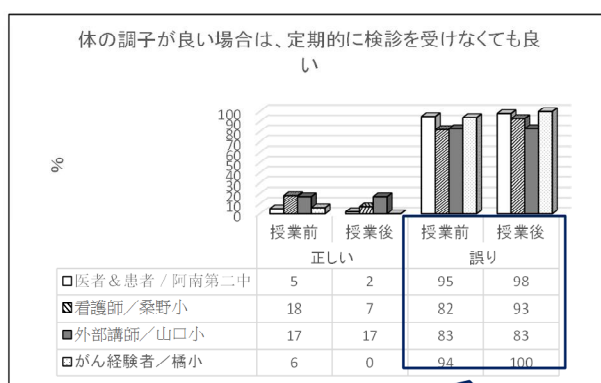
2. 事業の達成度について

がん教育についてのアンケート集計結果(モデル校4校／児童生徒)

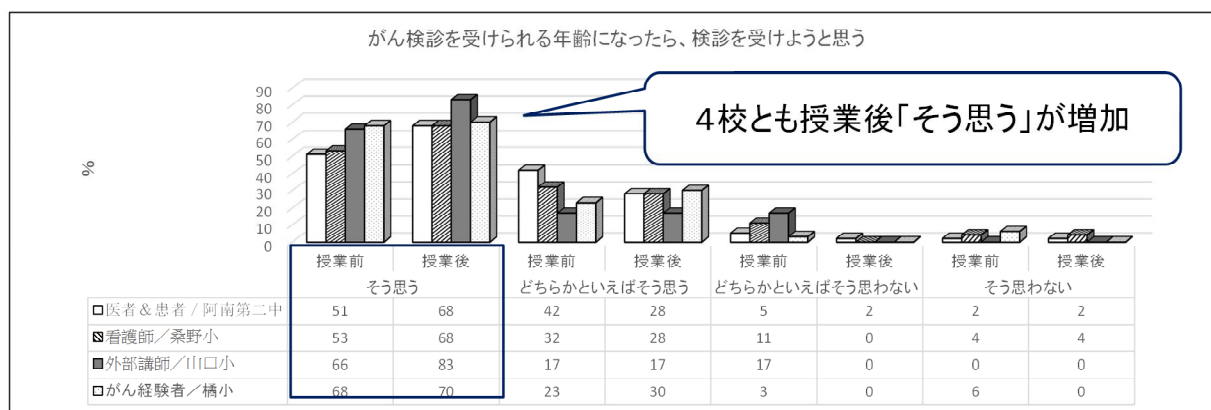




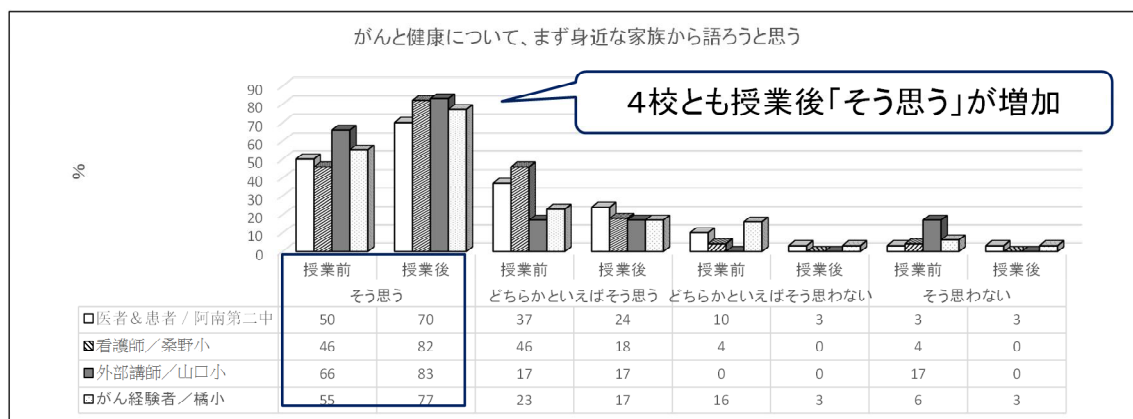
4校とも授業後「正しい」が増加



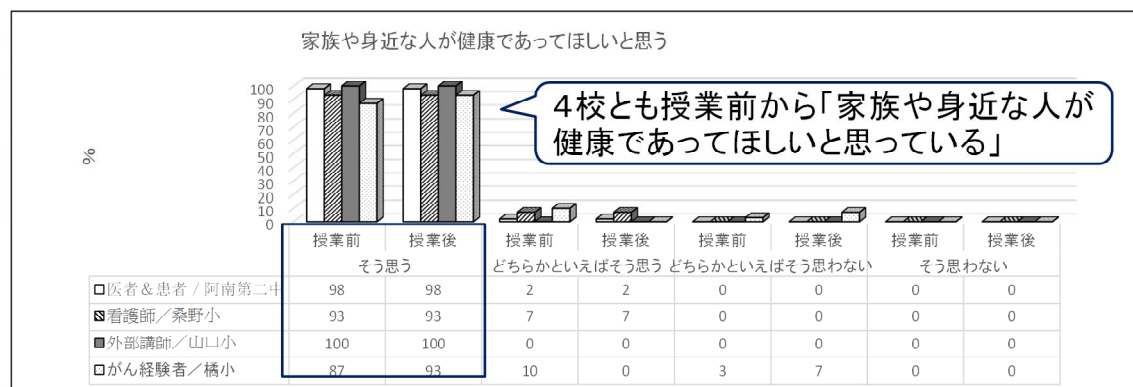
授業前から定期検診の大切さを理解している



4校とも授業後「そう思う」が増加



4校とも授業後「そう思う」が増加



4校とも授業前から「家族や身近な人が健康であってほしいと思っている」